

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	グループホームの在り方を踏まえて、その人らしく暮らせるよう開設時に独自の理念を作り上げている。		今後も全職員が理念を理解し、ユニット会議や毎日の関わりの中で理念に対する話し合いをし、実践していく。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は玄関に提示され、理念カードを全職員が携帯し、支援に対し、理念に沿っているのか話し合い、取り組み、共有している。		ユニット会議や日々の実践の中で話し合いをし、全職員が常に入居者を中心とした視点で取り組んでいる。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族には入居時に説明し、地域の方には、家族会や運営推進会議等の場を活用し、理解して頂けるよう取り組んでいる。		家族会の参加を呼び掛けたり、地域のイベントに参加しながら、今後も地域の一員として活動を続けていく。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	出勤時や散歩等、外で過ごしている時に地域の人達と接する場面では、挨拶はこちらからするよう徹底し、お互いに存在を認め合えるような関係作りをしていけるよう心がけている。		まだホームを活用していただく事は少ないが、気軽に立ち寄れる雰囲気作りを心掛け、今後も地域の一員として積極的に働きかけると同時に受け入れの体制を考えていく。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会には所属しており、行事や地域活動への参加は少しずつ増えてきてい。今後は、地域から誘いもしていただけるようになり、積極的に参加するよう努めている。		家族会や運営推進会議で、町内会長や民生委員に参加して頂いたり、地域行事などに参加し町内の方々とは少しづつではあるが交流を図っているが、より双方を身近に感じてもらえるような活動を増やしていく。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	当事業所の運営者は、地域の中で認知症に関する講義、講演を行い理解を広める為に貢献している。		職員に対しても地域の方々が気軽に相談出来る関係作りに取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部評価を実施する事で、自己を見つめなおせたり、ホームとして必要な事を個々に理解し改善に取り組んでいる。</p>	<p>今後も、事業所の全体会やユニット会議において、自己評価、外部評価を活用し自己を見つめなおす機会とし、活用していく。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>家族会や避難訓練に招き、ホームの活動に参加や体験をして頂き、その中で意見交換を行っている。</p>	<p>会議や行事という形だけに限らず、お互いが気軽に行き来でき意見交換が出来るような活動をしていく。また、全職員が運営推進会議がどのようなものか、どのような活動をしているのか等の具体的な内容が書かれている報告書を回覧したり、事業所全体会等伝え合える場を作り、今後の実践に繋げていく。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>当事業所の担当者が毎月、市役所へ直接出向き、市町村担当者に今後の予定などの報告や必要な申請等などで連携をとっているが、もっとサービスの質の向上に対し、ともに取り組む機会を増やしたい。</p>	<p>市町村からの意見やアドバイスといただいたり、共にサービスの向上に対し取り組める機会を増やしていく。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要となる制度や法律については、外部研修や個別もしくは全体を通し理解出来るようになっている。また、研修等の参加や運営者による助言、アドバイスにより理解、活用できる環境にある。</p>	<p>必要になった時だけではなく、自ら知識を身につけるように意識し、学んでいく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>ホーム全体での意識は高く感じられ、研修、講習会等によっても虐待について学んでいる。また、常に職員同士話し合いがなされ防止に努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>家族の状態を把握した上で、重要説明事項、契約書に基づき十分な説明を行い、理解、納得、同意を得ているが、全職員が理解し説明を行えるとは言えない。</p>	<p>個々が契約書等を再度確認、理解して、入居者及びご家族に安心していただけるような説明が出来るよう全職員で学んでいく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者は意見、不満、苦情を管理者や職員に伝える事が出来ている。また、言葉で伝えられない部分も汲み取り話し合いや支援に活かしている。		苦情や不満、意見等を伝える事が出来る人間関係や環境を作る為の普段からのコミュニケーションを図っていく。また、情報交換や解決に向けてすぐに取り組めるチーム作りを継続していく。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	電話連絡や面会時に本人の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について個々に合せた報告をして、月一回のホーム便りを利用したり、現在の状況等を写真、文面にて報告している。また健康状態に変化があったり通院時等にもその都度報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的に職員に話しが出来る関係にある。また玄関に苦情ボックスの設置、契約時に説明、重要事項説明書に意見、不満、苦情等の窓口や外部の相談機関への連絡方法を記載して交付している。		意見等を伝えて頂ける事をありがたく思い、改善に努めていく。また今後は、家族全体が集まり意見や要望等、ホーム側と話し合える場(家族会)を設け、直接運営に反映できるようにしていく。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やユニット会議を活用して意見交換がされている。また、運営者、管理者も、意見、提案を聞く姿勢があり相談しやすい環境にある。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の生活を中心とした時間配分をし、必要な時間帯に職員が確保出来るよう全職員の理解、協力を得て調整を行っている。また、緊急時にすぐ対応出来るよう話し合いを行い、柔軟な対応が出来るよう努めている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	全職員が両ユニットでもスムーズにケアに当たる事が出来るよう関係性、情報の共有が出来ており最小限に利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		入居者には、直接に移動、離職とは伝えずに、その時の感情に合せた受け答えをするよう心がけている。また新たな職員との関わりをサポートしたり、情報の共有を徹底し、ダメージを最小限に防ぐ環境を作っていくチーム作りを行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>運営者は法人内外の研修への参加の機会を積極的に設けており研修参加後には全体会議、ユニット会議にて報告をしたり、報告書を全職員に周知し、参加出来なかった職員にも内容等がわかるようにしている。</p>	<p>研修等だけではなく、毎日の実践が学びの場であり、自分を高める場であると全職員が心掛け努力していく。また研修等の報告も書面での周知だけではなく、全体会議等での発表などで全職員に伝え、今後の実践に役立てるような場を作っていく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>3市3町村からなる広域連絡会にて、勉強会、交流会を行っている。</p>	<p>他ホームの取り組みや外部の状況を知る事で、自分達の考えや行動に執着せず、視野を広げ、少しでもホーム全体、そして自分自身の向上につなげていく。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者は管理者や職員の自主性を尊重し、全てを受け入れる姿勢があるとともに、日常的に相談できるよう取り組んでいるが、職員一人ひとりのストレスの違いもあり、すべてのストレスを把握していない。</p>	<p>職員同士のストレスなど話し合える機会を作り、チームで解決策を考え解消できる信頼関係を築いていく。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>日常的に運営者から必要な助言やアドバイスがあり、各職員が向上心をもって働けるよう指導にあたっている。</p>	<p>職員一人ひとりも、運営者からだけのアドバイスや助言を待つのではなく、自分自身の意識を高め、自ら向上心をもって行動や相談が出来るよう努めていく。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に、本人、家族との面談にて不安や困っている事、求めていること等を話し合いをしているが、個々ではなくチーム全体で情報を共有していない部分もあった。</p>	<p>今後も、入居する前に本人やご家族に不安等がないような接し方に心掛け、向き合える時間が作り、個々だけの考えではなく、チームで本人にとって一番よい環境を作っていく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居する前に、電話等で現状を話し合い、家族等と情報など交換しているが、その情報をチームとして話し合う場がほとんどなかった。</p>	<p>ご家族と職員との情報共有や職員同士の情報共有を徹底しながら、どの職員にも話し合いが出来る機会を作り、信頼関係を築いていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	いま必要としている支援を専門職の視点で見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		本人にとって、最良な支援を含めて検討し、必要に応じて様々なサービス利用に対応出来るよう情報を提供し、相談に応じていく。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に事業所の見学にて、ホームの特性、雰囲気を感じてもらっている。また、入居当初は、ご家族にも協力していただけるよう話し合い本人が徐々に馴染めるよう工夫している。		本人、ご家族の希望を入居時に話し合い、チームで情報を共有し、馴染める環境やケアを保っていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者と職員が共に生活をしているという事を常に心掛け、助け合い、支えあう関係を築き、一緒に過ごしている。		「何かをしてあげている」という、意識を持たず生活の中からお互いが助け合い、支え合える関係を築いていく支援を行う。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日常生活の相談や報告を常に行える関係が築けている。また、話し合いや情報共有にて本人と一緒に支えていけるよう取り組んでいる。		今後も日頃から協力し合える関係作りを心がけていく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ライフヒストリーや日頃の会話の中で、本人とご家族との関係を理解し、ご家族にも協力していただいて、よりよい関係が築き保てるよう支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の協力を得ながら、大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。		外出や買い物のお機会を活かしたり、墓参り等でご家族の協力を得ながら、今後も関係が継続できるよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	本人の行動を尊重し、必要以上に介入せず見守りをおこなったり、入居者同士の関係を職員ひとりひとりが把握し、場合により場面転換などしながら行っている。また、個々が孤立せずに関わり合い、支え合えるように職員が配慮、介入をしている。		今後も本人の行動を尊重しながら、入所者同士の関係を把握し、孤立しないよう常に職員同士話し合い、伝え合い、入居者同士の関係を支えていく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	葬儀の参加等や、入院にて退去された際にお見舞いなどで、継続的な関わりを必要とする入居者やご家族には相談や支援に応じられるよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族と日常的に相談や話し合いをし、希望や意向の把握に努めている。また、困難な場合は、ライフヒストリーも踏まえ、本人の言動や表情を見ながら、検討している。		今後も本人の希望や意向の把握に努め、チームで話し合い工夫したり、ご家族の協力も得ながら、より良い対応、環境作りに努めていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日常の会話やご家族からの情報、ライフヒストリーを活用しながら把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	アセスメントシートにて、日常の言動や体調など細かに記入したり、職員同士の情報の共有など行い、現状を把握するよう努めている。		今後も、日常の言動や体調など、アセスメントシートだけではなく、職員同士の情報共有の徹底を行い、現状を把握し、より良い今の支援につなげていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ユニット会議にて、本人がより良い暮らしが出来るよう話し合いを行ったり、ご家族と相談などし、それぞれの意見や工夫を反映したケアプランを作成している。		今後もご家族と協力しあい、本人にとってより良い暮らしが出来るよう話し合いの場を増やしたり、ご家族もチームの一員としてケアプラン作成に関われるよう取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	一か月毎に全職員にて見直しを行い、変化に応じご家族と話しあいや情報を共有し新たに作成している。また、必要な関係者の意見も取り入れながら現状に即したケアプランの作成に努めている。		さらなる気づき、工夫をご家族、職員同士で情報を共有し、ケアプランの見直しにつなげていく。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ひとりひとりの日々の様子をアセスメントシートや申し送りに記入し情報を共有するよう努めている。また実践での気づきや工夫も個別に記入しケアプランへの反映に活かすよう努めている。		今後も個々の気づきや実践等を、チームで情報共有しケアプランの反映に活かされるよう取り組んでいく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人やご家族の状況に応じ、勤務の調整や、職員同士の情報の共有を図りながら、柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの訪問や、地域のイベント等の参加や避難訓練等の協力体制を得ている。		今後も本人の意向を重視した地域資源との協働を職員同士話し合い、さまざまな機関と協力しながら支援できるよう取り組んでいく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者の状況に応じて、訪問理容、訪問看護、往診等を利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	毎月のホーム便りを直接地域包括センターへ持って行き、今後の予定や現在のホームの状況など話し合い協働している。		今後は運営推進会議や催し物に参加するだけの協働ではなく、より良いサービスの向上に向け密に話し合いが出来る関係と場を増やしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望を取り入れ、かかりつけ医との連携、関係を築きながら、本人にとって適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医、ご家族、ホームとで相談、話し合い等をしながら支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ホームの活動を理解している医師達の診断を受けており、医師と気軽に相談できる関係を築いている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員を確保しており、また訪問看護ステーションとも契約しており、気軽に相談できる関係を築きながら、毎日の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族と連絡、調整を行い、入居者のダメージを最小限にできるよう面会に行ったり、医療機関に相談、情報交換を行い、早期退院が出来るよう努めている。		今後も家族と相談や入居者のダメージを最小限に出来るよう継続していく。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在はターミナルケアを行っていないが入居時、家族に説明を行っている。また、ターミナルケアに関する研修に参加したり、かかりつけ医と相談や情報交換などを、ご家族、職員に伝え、これからの在り方について、常に話し合いをしている。		終末期にむけての思いや不安、知識を常に話し合い、ご家族も含め方針を共有できるようにしてき、個々に終末期に対する意識や知識を高めていく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期に起こる、利用者の不安や状況の変化を職員同士話す機会が少なかった。また、かかりつけ医と情報共有できるように、その情報がすべての職員が把握、理解できていない部分もあった。		終末期にむけての本人の思いや不安や知識を常に話し合い、事業所で「出来る事、出来ない事」を見極め、ご家族、かかりつけ医も含め方針を共有しチームとして支援できるよう取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>退去時には、本人、ご家族と十分に話し合い、本人の状態やご家族の希望を確認しあって本人にあった環境と考えられるサービスへと移行している。その際、次のサービス先への情報提供を行い、本人のダメージを最小限に防げるよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>過去の生活やライフヒストリー、ご家族からの情報、普段の会話に基づき、本人のプライバシーを尊重し、人生の先輩とした対応、言葉かけを行っている。</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の思いや伝えたい事を表現できる関係、環境作りに努め、本人の能力や場面に合せた説明を行っている。また本人が納得しながら暮らせるよう工夫しながら支援をしている。</p>		<p>職員からの働きかけばかりではなく、本人が自発的な生活が出来るような環境作り、関係が作れるよう職員同士話しあったり、ご家族から協力を得たりしながら継続していく。</p>
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>時間の縛りは無いが、人数的に余裕の無いときもある。その中でも生活を共にする事を考え優先的に必要な部分を判断し、出来ない支援等、不自由ではあるが折り合える暮らしとなるよう工夫しながら支援をしている。</p>		<p>毎日の一人ひとりの生活リズムや、ペースを日頃の言動などから想定し、職員同士の情報を共有しながら、入居者が自己決定が出来る環境づくりを、職員の意識の改善はもちろんのこと、具体的にシフトの見直しや柔軟なシフトの変更等、入所者の生活に職員の対応を合わせていく支援を行う。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の昔からのスタイルを継続できるよう、ご家族にも協力してもらいながら支援している。また外出が困難な利用者の場合も出張理美容を利用して身だしなみやおしゃれができるよう支援していた。</p>		<p>今後は買い物等や、ご家族の協力を得ながら洋服等を自分で選択できるような場面を作る等の働きかけや工夫しながら支援していく。</p>
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>それぞれの好みや毎日の献立、食事形態、盛り付けに工夫しながら、能力に応じて一緒に調理、配膳、片付けなど行ったり、場所などこだわらず、個々が食事を楽しむことが出来るよう支援している。</p>		<p>こちらからのお願いばかりではなく、入居者自身が自然に準備や片付けが出来るような、環境づくりや職員の言動に工夫し、一人ひとりが楽しみを感じられるような支援をチーム全体で支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ライフヒストリーや日頃の会話、ご家族からの情報にて本人の好みに合わせて楽しめるように工夫している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	表にて水分の摂取状況、排泄状況を確認しながら、表情や仕草等からも観察を行い声かけ、誘導を行っているが、入居者一人ひとりパターン、習慣を見極められていない部分もあった。		今後も排泄パターンの把握に情報を共有を徹底する事に努め、本人が気持ち良く排泄できるよう支援していく。失敗したときも羞恥心に配慮をした声掛けや、速やかに清拭、入浴など、身体的、精神的な不安に対しての支援を常に行なっていく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間に関係なく一人ひとりの希望にあわせたり本人のタイミングに合わせて声かけをしたり、入浴が楽しめるよう工夫しながら支援している。		入居者にあわせて入浴剤を使用したり、入り方に工夫しながら今後も取り組んでいく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれの生活習慣や心身の状況、体調などに応じて、安心して休息や睡眠がとれるよう環境等にも配慮し支援している。また眠れない時などは、本人の言動を受け入れ共に過している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ひとり一人の生活歴、生活リズム、能力、役割を活かしながら、音楽、カラオケ、ドライブ、買い物などで、楽しんだり気分転換などの支援をしている。		毎日が同じ繰り返しではなく、自然な形で楽しみや気晴らしが支援できるよう工夫しながら今後も取り組んでいく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談しながら、本人の能力に配慮し現金を持っていただいている。また、買い物等で使用する場面を作り支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個々の能力、生活リズムに合わせて、買い物やドライブ、外食、テラスでのお茶のみの声かけを行ったり、ご家族の協力を得て、面会時にご家族と外出などの支援を行っている。		今後も外の空気や季節感を身近で感じてもらえる機会を増やしていく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人の体調や気分を考慮しながら家族会やご家族の協力を得て、外食や長距離ドライブ、地域のお祭りなどに出かけられる機会を作っている。		今後も本人の体調や気分など考慮しながら、出かける機会を増やしていく。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者から自発的な要望は少ないが、要望があった際には自由に連絡が取れる環境にある。また自発的な要望がなくても、職員が思いをくみとり連絡をとれるように支援している。		電話や手紙を書けない入居者や、必要と判断した際に、ご家族の協力を得ながらやり取りが出来る方法など話し合い、工夫しながら支援していく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	時間に関係なく自由に面会できるようになっている。また面会時は本人、ご家族の好きな場所でゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の定義については、全職員が理解しており、抑制、身体拘束をしないケアを実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間帯は防犯の為、玄関は施錠しているが、日中は玄関に鍵をかけることのない支援を行っている。		今後も鍵だけではなく、行動の抑制等がないようチームで話し合いながら実践していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜問わず入居者の居場所を声を掛け合っていたが、職員同士の情報共有がきちんとできていなかった。		今後も「あそこにいるだろう」との安易な予測に留まることなく、職員同士情報を共有し、個々に意識と感性を高めながら安全に配慮していく。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの行動を把握し危険がないように家具の固定やご家族の協力を得ながら取り組んでいる。また、その時の入居者の行動や気分を把握し、家具の配置や注意の必要な物品の移動など、工夫しながら事故防止に取り組んでいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの行動や状態を把握すると共に、変化や気づきを職員間で情報共有し、事故防止に取り組んでいる。また、ヒヤリ、ハットや事故報告書についても、書面や口頭、申し送りで情報を共有し、再発防止に取り組んでいたが、個々の意識の甘さから、後手にまわっている取り組みになっていた。		ノロウイルス感染の事故を受けて、職員全体で話しあう場を設け、個々の意識改革、チームとしての支援の方法を話し合う機会を増やしている。また、書面等の申し送りだけではなく、常に情報交換、情報共有ができる信頼関係を築き、今以上に意識を高めていく。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルの作成、定期的な救命講習にて訓練や知識を身につけていくよう取り組んでいるが、日々の職員同士の情報共有の不備や、個々の応急手当の認識不足から対応がバラバラになったり、情報が伝わりきれてない事があった。		定期的にマニュアルを見直したり、職員同士の情報交換、情報共有を徹底し、常に話し合えるチームとして支援していく。また、月一度の全体会議などで、個々が不安に思う具体的な支援方法など、勉強会、研修会を設け、職員同士互いに情報交換や知識や技術が学べる場を増やしていく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を実施し消防署職員からの助言を災害対策にいかしているが、近所や地域の人々にも協力を得られるような働きが、まだ少ないと思われる。		今後はもっと近隣住民や地域の々が避難訓練に参加してもらえるような働きかけをし、協力体制を図っていく。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族には、日常起こり得るリスクについて説明をしている。またリスクを最小限に抑えるよう、行動や状態など観察し、利用者の行動を制限しないよう職員間で情報共有や話しあいを行って対応に努めている。		事前に予測できるリスクについては、早めにご家族に伝え、リスクの回避と対策を話し合う。また常にリスク管理(リスクマネジメント)とケアマネジメントを意識し、チームで情報共有しながら支援していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの体調の変化や異変の早期発見に努めていたが、情報共有、情報交換の不備から職員と看護師(管理者)との間で情報が伝わっていなかった事や、認識不足などで速やかな対応が出来ない時もあった。		職員個々の判断ではなく、報告・連絡・相談・打合せを密にする事で早期発見に繋がるという事を念頭において、情報の共有や、情報の交換を徹底し、チームとして支援出来るよう取り組んでいく。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋は記録用のファイルに閉じ、処方内容や作用、副作用を職員が常に確認できるようにしている。		薬の服用が変わった場合も、個々でのファイル確認だけではなく、口頭にて情報を共有し、安全に処方、確認ができるよう取り組んでいく。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々の排便間隔を把握するとともに、食物繊維の多い食材や献立を提供したり、豆乳、青汁、センナ茶等にて調整をおこなったり、本人に合せた運動や腹部マッサージにて便秘の予防に取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	パイナップルやキウイを食することで口腔ケアを行うことが出来る事を学び、実践したり、口腔ケアを行う事で、健康管理に繋がるという事を理解しながら支援していたが、衛生に対する認識がまだ充分ではない。		事業所内で行った口腔ケアの研修会に参加し、口腔ケアの重要性や、正しい知識や技術を学び、それを活かし工夫しながら毎日の口腔ケアを行っていく。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々に合せた量やバランス、食事形体や配置等の工夫をしながら支援している。また、時間にこだわらず、摂取できる時に提供したり、必要に応じて栄養補助食品を提供している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、各ユニットに設置しているが、ノロウイルスの発生により、職員同士の情報交換や情報共有の不徹底、感染症予防に対する意識の甘さや、認識や知識不足、手洗い、うがい、清掃、消毒、汚物等の取り扱いなどの不備があった。また、職員の体調管理の意識の甘さもあり、感染症予防や対応をきちんと実行できていなかった。		ホーム内に感染症対策委員会を設置し、感染症マニュアルの見直し、感染症予防チェックリストを作成し、毎日の行動目標としてチェックし、一時間おきに湿度の確認、次亜塩素酸ナトリウムによる手すり、ドアノブ、床、台所、トイレ、玄関、居室等の拭き取り消毒、汚物処理の取り扱いの徹底により、予防している。また、面会される際の手洗い、うがい、マスクの着用をお願いしている。今後も、感染症に対して一人ひとりが意識改革をし、予防に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理用具等の除菌などで衛生管理を意識していたが、台所周辺の衛生管理の不備や通常の洗浄で終わらせていたり、毎回食後での台所、調理用具等の除菌はしていなかった。また食材の賞味期限の確認の徹底と、早期使用に努めているいたが、食材の保存方法などの不備や職員一人ひとりの食中毒に対する意識の甘さがあった。		台所、調理用具等の除菌、台所周辺の衛生管理の徹底、食材の保存方法や賞味期限の確認を徹底し早期使用に努めたり、食器等の煮沸洗浄などで、食中毒の予防に努めている。また食中毒に関する知識や予防策をホーム全体で話し合い今後も常に食中毒予防に取り組んでいく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関やテラスに花壇や鉢植え等を設置し、夏場は家庭菜園を作ったりし親しみやすい雰囲気工夫している。また庭先にはシロ(犬)もあり、近隣の方のマスコットの存在となっている。		玄関先には、入居者が外で過ごせるようベンチを置いたり、全体的には木の造りとなっており、温かみを感じる。また今以上に玄関周りの美化にも今後力を入れていく。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活感を感じてもらえるよう昔馴染みの品を置いたり、入居者の写真やご家族と一緒に写っている写真を飾ったり、季節感を感じてもらえるよう、その時期に合せた花や飾り付けをし、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	家具や椅子の配置に工夫しながら、一人や少数で過ごせる居場所を作っている。またその都度椅子を増やしたり減らしたりと、状況に合わせて工夫している。		今後も入居者同士の関わりを尊重し、思い思いに過ごせるような場面作りの配慮をしていく。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、本人の使いなれた物や好みの物や、今必要としている物をご家族と相談しながら、居心地よく過ごせるよう工夫しながら配慮しているが、清掃、整理整頓が行き届かない部分もあった。		常に衛生に対する意識を高め、衛生管理の徹底を行う。また、入居者一人ひとりに合せた環境や配置など工夫しながら取り組んでいく。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓の開閉による空気の入替えや、空気清浄機や加湿器の設置、加湿タオル、温度計、湿度計を各居室やリビングに設置していたが、気温や湿度も空間をによってばらつきがあった。また職員も湿度や換気、空調がどれだけ重要なものかという認識の甘さから、確認不足が多く配慮が足りなかった。		現在各居室、一階、二階廊下、リビングの湿度の確認を徹底し、湿度計、加湿器内の水量の点検や加湿タオルの乾き具合を一時間おきにチェック表を用いて確認を行い、湿度が保たれるよう調整している。また湿度管理、換気等の重要性に対し、個々の意識を高めている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリーだけが全てではなく、生活全般がリハビリに繋がるという意識を常に持ち、体調管理に繋がっている。また手すりの設置や家具の配置の工夫にて身体機能を活かした生活が出来るよう支援している。</p>		<p>死角となるスペースや、段差などが不自由に感じる方に対してはスタッフ自身がつく事により解消している。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの能力、理解力を把握し、混乱や失敗が防げるよう工夫しながら、個々が持つ能力や理解力を最大限に活かし暮らせるよう自立の支援に努めている。</p>		<p>一人ひとりの能力を、全職員が把握、共有し、その人がもつ最大限の能力を引き出し、継続し続けられる自分作りと支援を今後も継続していく。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>天候により、テラスにて食事やお茶などを楽しんでもらったり、花壇や家庭菜園を一緒に行ったり、設置しているベンチにて雑談をしたり、利用者が活動できるよう活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ①しずつ増えている あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ①利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ①家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

職員は、入居者が「自分が持っている力を使いながら生きる(生きる)」ということを意識し、「入居者本人はどうしたいのか」「入居者本人にとって、どうすることが良いのか」「どのように支援していくのか」を常に自問自答し、悩み、話し合いながら日々の支援に当たっている。また、行動ではなく、その人それぞれの思いを大切にしながら関わり、そこから芽生える信頼関係や安心感が、職員、入居者双方の支えになっていると感じられる点が自慢できるところと考える。